

# 2019年度業績の報告／業績ハイライト

(第96期 2019年4月1日～2020年3月31日)

## 金融経済情勢

当事業年度のわが国経済は、通商問題等を背景に輸出に弱さがみられたものの政府の経済対策などから企業収益は底堅い動きを示し、雇用情勢も改善するなど緩やかな回復が続いていました。しかしながら年度末にかけ新型コロナウイルスの感染拡大に伴い景気が足元で大幅に下押しされ、厳しい状況となりました。また新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、海外経済も米国、中国および欧州などでは軒並み経済活動が抑制され急速に景気が減速し、先行きに対する警戒感が一段と強まりました。

金融情勢については、米中貿易摩擦や英国のEU離脱、中東情勢の不安定化に加え、新型コロナウイルス

感染症の影響などから欧米・中国の中央銀行における金融緩和に向けた動きが続きました。国内では日本銀行による超低金利政策が継続され、当事業年度末には長期金利の指標である新発10年物国債利回りは0.0%台、ドル円相場は108円台、日経平均株価は18,900円台となりました。

当行の営業基盤である福岡県内の経済も、全体的には緩やかな拡大基調にありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い当事業年度末にかけ景気は急速にスローダウンし、海外景気の下振れリスクも増大していることなどから厳しい見方が広がりました。

## 当行の現況

当事業年度に実施した主な施策は以下のとおりです。

### ・アライアンス戦略の強化

当行は「地域金融機関との共創による、地域社会の活性化を通じた地方創生への貢献」を社会的使命の一つとして掲げるSBIグループとの連携をより一層強化するため、2020年1月にSBIホールディングス株式会社との間で資本業務提携に関する契約を締結しました。当行とSBIグループとの間では、既に2年超に亘って幅広い分野において連携を強化してまいりました。こうした信頼関係を前提に、戦略的パートナーとして、同グループが持つテクノロジーやノウハウを活かして当行自身のコスト削減や資金運用の高度化を実現するとともに、お客さまに対しては質の高いサービスを提供し更なる地方創生と地域経済の活性化に取り組んでまいります。

ソリューション提案強化の取組みとして、当行は株式会社ランビとM&Aに係るビジネスマッチング契約を締結しました。当行は、同社がWEBサイト上で提供する全国ベースのM&Aマッチングプラットフォームを取引先に紹介し、M&Aを活用した事業承継や事業拡大等のニーズを持つ取引先を支援してまいります。

また、当行子会社の株式会社ちくぎんテクノシステムズ(以下、「CTS」という。)は、Eコマースプラットフォームを提供するB A S E株式会社と業務提携しました。本提携では、地域のお客さまにECサイトの立ち上げや起業支援を行うことで、取引先の情報発信力を高め、地域潜在力の具現化を支援します。更にCTSはSBIビジネス・ソリューションズ株式会社および株式会社テクノ・カルチャー・システムと業務提携しました。本提携ではクラウド型ワークフローシステム「承認Time」を取引先に紹介し、業務のIT化や生産性向上等を支援してまいります。

当行の業務提携会社である株式会社アジア福岡パートナーズ(以下、「AFP」という。)は、専門人材の採用を支援するアスタミューゼ株式会社と業務提携しました。当行はAFPを通じ、アスタミューゼ株式会社が運営する専門人材マッチングサービスを取引先に紹介し、取引先の事業展開に必要な専門人材の採用を支援してまいります。

昨年8月には、当行並びに九州電力株式会社のほかSBIホールディングス株式会社とSBIグループ投資先企業が協働し、福岡県宗像市で開催された第6回宗像国

際環境会議において地域電子通貨「常若通貨(とこわかづか)」の提供を実現しました。ブロックチェーン(分散型台帳技術)を使った電子通貨の提供は九州の金融機関としては初めての取組みでありました。当行は今後も以上のようなアライアンスを通して地域社会の活性化に取り組んでまいります。

### ・商品・サービス等の拡充

個人のお客さま向けの新たな商品・サービスとして、スマートフォン向けアプリである「ちくぎんアプリ」に残高照会および入金明細照会機能を追加したほか、SBI損害保険株式会社と損害保険代理店委託契約を締結し「SBI損保のがん保険 自由診療タイプ」の取扱いを開始しました。同商品は、公的保険診療の対象となるがん治療費の自己負担分に加えて先進医療および自由診療の対象となるがん治療費も実額補償する保険であり、当行のWEBサイトを通じて保険のお見積りからご契約までWEBサイト上で完結できる仕組みとなっております。当行は今後も、お客さまの多様なニーズにお応えし、よりご満足いただける新しい商品・サービスの提供に努めてまいります。

法人・個人事業主のお客さま向けの取組みとして、既存の「ちくぎん地域活性化ファンド」への追加出資および融資枠の追加設定を行いました。当ファンドはバイオ・医療・介護・アグリ事業など地域の特性を活かした事業や、IT関連、再生可能エネルギー事業など成長産業分野のほか、後継者不足による事業承継および経営改善・事業再生等に取り組んでいるお客さまの資金ニーズに対して融資に加えて出資によるリスクマネーの供給を積極的に行うこととしております。また、CSR私募債「ちくぎん地域応援私募債」を当事業年度に8件受託しました。本私募債は、お客さまの資金ニーズにお応えすると同時に私募債発行額の0.2%相当額の物品又は金銭を教育機関等に寄贈することで地域社会を応援する仕組みとなっております。当行は今後も地域社会の活性化を通じた地方創生への貢献に努めてまいります。

### ・新型コロナウイルス感染症への対応

当行は新型コロナウイルスの感染拡大により影響を受けられたお客さまをご支援するため、当行本支店の窓口でご相談の受付を行うほか、土日祝日にご利用いただける専用フリーダイヤルを設置しました。また

「新型コロナウイルス感染症対応特別融資」および対象ローン商品について金利を0.5%割引く特別金利の取扱いを開始しました。

#### ・本部組織の見直し

本部組織のスリム化、フラット化、多能化を企図し、本部制を一部導入しました。「企画本部」に人事グループ、総務グループ、企画グループ、デジタル戦略グループ、東京事務所を置き、「営業本部」に営業推進グループ、ソリューション事業グループ、国際営業グループを設置しました。バックオフィスセンター、長崎開発室を除く、これまで「室」として行っていた業務は上位の部あるいは「グループ」へ統合し「チーム」としました。この結果12部1事務所9室から2本部6部2室に集約となりました。また、次年度には更に本部組織の見直しを進める予定です。

#### ・営業店舗等

営業店舗については、新設・廃止ともなく店舗数は44か店と変動ありませんが、雑餉隈支店を博多支店内に移転しました。なお昨年7月に、東合川支店を近隣地へ移転しました。新店舗は、お客さまの大切な財産を安全にお守りする全自動貸金庫や多目的トイレ、スロープ等バリアフリーに配慮するなど機能面を充実させております。

店舗外現金自動設備については、4か所廃止しましたので35か所39台となりました。

#### ・基幹システムの基盤更改

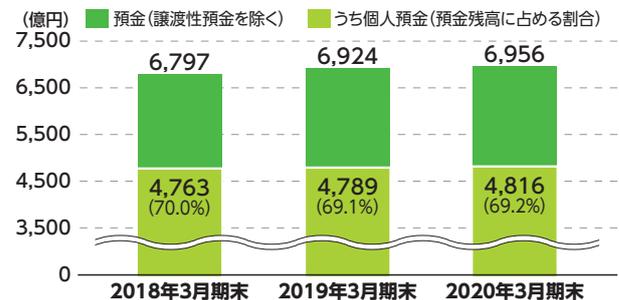
基幹システムの基盤更改については、日本ユニシス株式会社の協力体制のもと安全で効率的なシステムの構築に向けて準備を進め、本年1月13日より新基盤へ移行を終え同日から稼働を開始しました。これにより勘定系APIの開放やシステムの24時間運用が可能となりました。

## 当期の業績

### ●預金

預金は、資金調達のコアとなる個人預金が増加したことに加えて公金預金も増加したことから、前期末比32億円増加の6,956億円となりました。

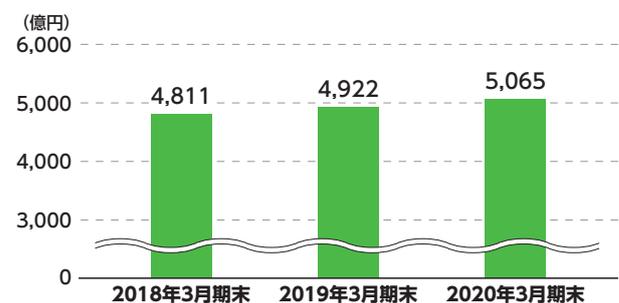
#### 預金残高の推移(単体)



### ●貸出金

貸出金は、地元の中小・中堅企業や個人事業主を中心とした取引の拡大や、住宅ローンをはじめとした個人のお客さまの資金ニーズにお応えするなど積極的な営業活動に努めた結果、中小企業等向けなどの貸出金が増加したことから、前期末比143億円増加の5,065億円となりました。

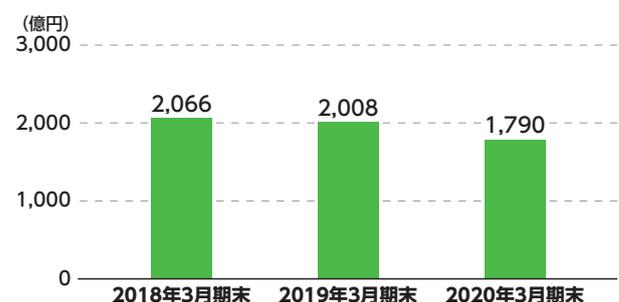
#### 貸出金残高の推移(単体)



### ●有価証券

有価証券は、短期から長期までの国債金利がマイナスとなっている投資環境が続いており、国債や地方債が減少したことなどから、前期末比217億円減少の1,790億円となりました。

#### 有価証券残高の推移(単体)

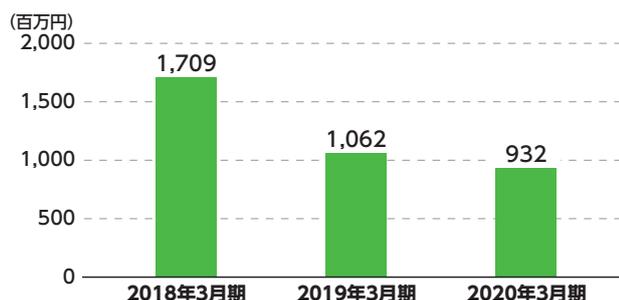


## ● 損益状況

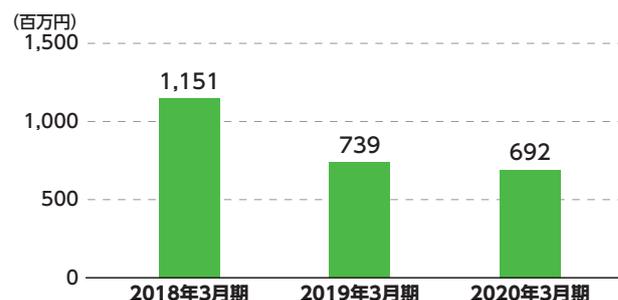
経常利益は、営業経費や不良債権処理費用が減少したものの、株式等償却を計上したことなどから前期比1億29百万円減益の9億32百万円となりました。

また、当期純利益は、経常利益が減益となったことなどから、前期比46百万円減益の6億92百万円となりました。

### 経常利益(単体)



### 当期純利益(単体)



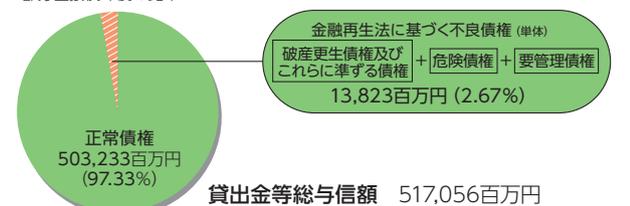
## ● 不良債権比率 2.67%※

金融再生法に基づく貸出金等の総与信額5,170億56百万円のうち回収に懸念のない正常債権は5,032億33百万円であり総与信額の97.33%を占めております。

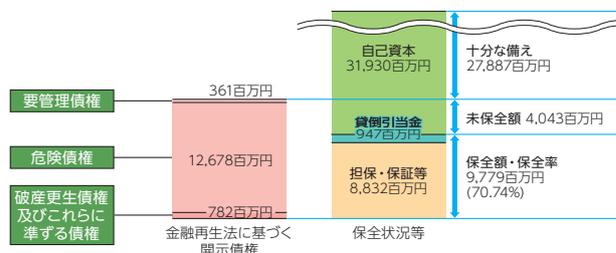
一方、不良債権は138億23百万円(総与信の2.67%)となり、前年同期末の127億14百万円(総与信の2.53%)と比べて11億9百万円増加しました。

また、この不良債権の70.74%(97億79百万円)は、担保・保証等や引当金で保全されています。

※部分直接償却後の比率



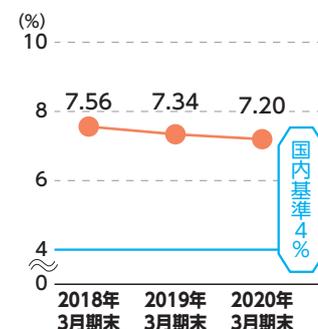
※対象債権：貸出金、外国為替、未収利息、仮払金、支払承諾見返、銀行保証付私募債



## ● 自己資本比率 7.20% 国内基準(4%以上)を大きく上回っています。

2020年3月期末の自己資本比率は、前期末比0.14ポイント低下の7.20%となり、最低所要自己資本比率(国内基準)の4%を十分に上回る水準を維持しています。また、資本金や利益剰余金などの普通株式に係る株主資本の額が自己資本の額のほとんどを占めており、質の高さを維持しています。

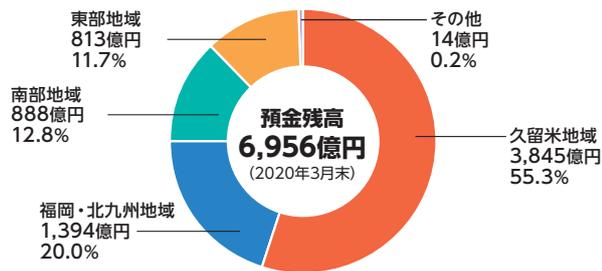
### 自己資本比率(単体)



## 皆さまのお取引状況(預金・預り資産)

### ●地域別預金残高、構成比率

当行は、地域に根差した金融機関として、設立以来地域の皆さまからのご信頼をいただき、預金は順調に増加しております。今後もお客様のニーズに対応した魅力ある金融商品の提供に努めてまいります。

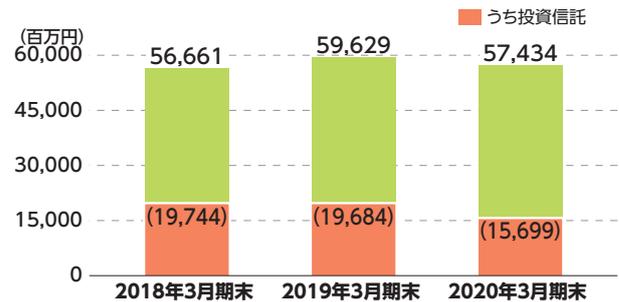


### ●個人預り資産残高

当行は、お客様の多様化する資金運用ニーズにお応えする投資信託や国債等を取扱っております。個人預り資産は、前期末比21億94百万円減少して574億34百万円となりました。

※個人預り資産＝投資信託、生命保険、外貨預金、公共債の合計

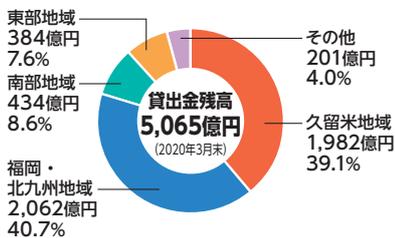
#### 個人預り資産残高の推移



## 皆さまのお取引状況(融資)

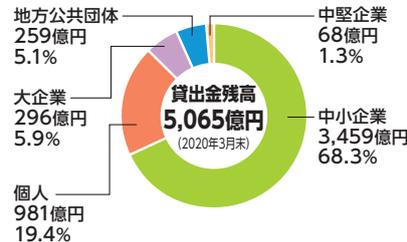
### ●地域別貸出金残高、構成比率

当行が地域のお客様からお預かりした大切な預金は、そのほとんどを地域の企業や個人の方への貸出に向けており、「地域の資金は地域のために」という当行設立の趣旨を堅持し、地域金融機関の使命を果たしております。



### ●中小企業等貸出金残高、構成比率

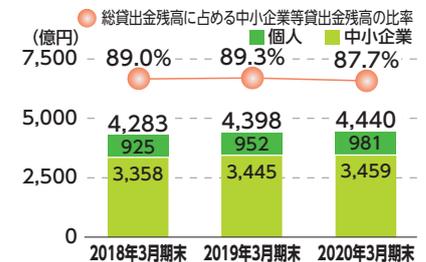
当行は創業時より地域の中小企業や個人の方を中心に貸出を行っております。今後もお客様のニーズを的確につかみ、必要とされる資金・金融サービス・各種金融情報をタイムリーに提供してまいります。



### ●中小企業等貸出金残高、比率の推移

中小企業および個人の方に対する貸出金の残高は、前期末比42億円増加し、4,440億円となりました。総貸出金に占める中小企業等貸出金残高の割合は、87.7%（中小企業68.3%、個人19.4%）と引き続き高い割合を維持しております。

#### 中小企業等貸出金残高、比率の推移



## 今後の課題

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により足元で大幅に下振れしており、先行き不透明な状況にあります。金融機関を取巻く経営環境は、日本銀行による超低金利政策の長期化に加えて他行との競争激化やデジタル社会の急速な進展のほか、フィンテック技術を駆使した異業種企業からの金融サービスへの進出など厳しい状況が今後も続くと思われまます。

こうした環境下、従来型の預金・貸出金業務だけではなく、先進的な技術や専門的な知見を有する企業等とのアライアンス強化により新たなビジネスモデルを構築することが必要であります。当行は、これまで地域のお客さまとの対面営業を通して築き上げた信頼関係を強みとしてきました。今回、アライアンス戦略の一環としてグローバルな資産運用力や新技術を駆使したサービス、システム開発力を擁するSBIグループと資本業務提携したことは両社の強みを相互に補完することにより、大きな相乗効果を発揮できると考えております。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域経済、社会への影響は深刻化しております。当行は、お客さまと職員の健康・安全を最優先に新型コロナウイルスの感染拡大防止に取り組むとともに、お客さまの資金決済やご預金の引出し、事業資金やローンのお借入や返済に関する支援など金融サービスの提供を続けてまいります。

2018年4月よりスタートさせた「中期経営計画2018」（計画期間2018年4月～2021年3月）は2020年度が最終年度となります。本計画は前中期経営計画で掲げてきた「地域を興し、ともに成長・発展する銀行」というスローガンを継承し、その実現のための基本方針を、「お客さま本位の徹底」、「地域創生への貢献」、「強靱な経営基盤の構築」としています。これにより当行の収益力の強化を起点とした「お客さま・地域社会と共に成長・発展する好循環」という中期経営計画に掲げたビジョンを実現します。

当行は今後も、お客さまのお取引満足度の向上に努めるとともに、地銀そのものが地方の有力な金融サービス産業であるとの認識の下、堅実経営を遵守し、地域創生と地域経済の活性化に尽力してまいります。